

調査の結果、御着城の外濠は認められず、旧河道の検出のみに終った。また、住居跡等の生活跡も調査範囲内では検出されなかった。

8 木簡の积文・内容

(1) 「十二月廿九日辰巳時金^{〔鳴カ〕}從東 (416)×57×11 019

(2) ・^{〔言カ〕}大日真[□]

・^{〔牟尼カ〕}尺迦^{□□}

(116)×20×5 039

(1) は、墨が流出し、文字が木面より浮きあがっている。裏面には墨書は認められない。

(2) は、赤外線テレビにより判明したものである。

(1)・(2)とも积読にあたっては、奈良国立文化財研究所の鬼頭清明氏の御教示をいただいた。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『前東代遺跡』(一九八五年)

(西口和彦)

木簡研究 第四号

巻頭言——木簡保存法の思い出——

坪井清足

一九八一年出土の木簡

概要 平城宮跡 奈良女子大学構内遺跡 法隆寺 藤原宮跡 長岡京跡 三条西殿跡 鳥羽離宮跡 若江遺跡 佐堂遺跡 大坂城三の丸(大手口)遺跡 小曽根遺跡 尾張国府跡 下津城跡 坂尻遺跡 小川城跡 恒川遺跡 三ツ寺Ⅱ遺跡 下野国府跡 多賀城跡 郡山遺跡 胆沢城跡 道伝遺跡 笹原遺跡 明成寺遺跡 安田遺跡 大森鐘島遺跡 高堂遺跡 漆町遺跡(C地区) 南吉田葛山遺跡 百間川遺跡群(原尾島遺跡) 草戸千軒町遺跡 道照遺跡 長門国分寺跡 野田地区遺跡 湯川神社境内遺跡 大宰府跡(大楠地区) 九州大学(筑紫地区) 構内遺跡 長野遺跡 辻田西遺跡

一九七七年以前出土の木簡(四)

平城宮跡(第二二次南・第二七次・第二八次・第二九次)

呪符木簡の系譜

和田 萃

木簡と上代文学——水産物付札をめぐって——

小谷博泰

「漆紙文書」出土概要

佐藤宗諱

彙報

頒価 三五〇〇円 千四〇〇円